

『コンフリクトの人文科学』投稿規定

1. 投稿資格

大阪大学大学院人間科学研究科ならびに文学研究科の教員、研究員、連携研究者、後期課程大学院生、グローバル COE「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」の各種研究教育事業で発表や報告を行った方、その他編集委員会が適当と認めた方が投稿できます。

2. 審査

原稿を掲載するか否かは、編集委員会で審査の上決定します。原稿は採否に関わらず返却しません。

3. 原稿形式

マイクロソフト・ワードで読み込み可能な形式で作成してください。写真・図表は、執筆者がパソコンで作成・編集したものを使用します。

4. 原稿送付について

印刷済み原稿 1 部とともに、原稿のデータファイルを記録した各種電子メディア（FD、MO、CDR 対応・Windows ならびに Macintosh 対応）を、編集委員会宛に郵送してください。

〒565-0871 吹田市山田丘 1-2 大阪大学大学院人間科学研究科

グローバル COE 事務局 コンフリクトの人文科学編集委員会

TEL 06-6879-4046 FAX 06-6879-4049

5. 原稿の区分と枚数

本誌には、広い意味でコンフリクト（紛争、葛藤、軋轢、摩擦）にかかわる「論文」「研究ノート」「調査報告」「資料と通信」「書評」の投稿区分を設けます。「資料と通信」は、研究集会や国際会議の報告などを対象にしています。また、原稿の区分ごとに、下記のとおり、枚数制限（400 字詰原稿用紙 1 枚換算）／文字数制限を設けます。いずれも本文、注、参照文献、図表を含めた枚数です。

論文	80 枚以内（32000 字以内）＋欧文要旨（300 語以内）
研究ノート	50 枚以内（20000 字以内）＋欧文要旨（300 語以内）
調査報告	50 枚以内（20000 字以内）
資料と通信	20 枚以内（8000 字以内）
書評	20 枚以内（8000 字以内）

6. 構成

論文	題名、日本語要旨、キーワード、目次、本文、注、参考文献、欧文要旨
研究ノート	題名、キーワード、目次、本文、注、参考文献、欧文要旨
調査報告	題名、キーワード、目次、本文、注、参考文献
資料と通信	題名、本文、注、参考文献
書評	編・著者名、書名、副題、版数、出版地、出版社、刊行年、総頁数、定価を明記する。

付記、謝辞等は、必要に応じて、本文の直後に挿入してください。

7. 日本語要旨

400字以上800字以内とします。

8. 投稿者氏名・連絡先

原稿本体とは別（別紙・別ファイル）に、氏名（和文・英文）・連絡先（住所・電話番号・電子メールアドレス）を明記してください。

9. 様式

- 1) 原稿は横書きとします。句読点は「、」「。」を使用してください。
- 2) 使用言語は日本語とします。題目・キーワードに英訳を付記してください。
- 3) 本文中の見出しは、章は1、節は1.1、項は1.1.1の順とします。
- 4) 文献引用は、本文中に（著者姓 刊行年：頁数）と表記するか、あるいは後注にて示すこととします（括弧は全角、スペースは半角）。

本文中に表記する場合の例

・・・である（栗本 2008： 65-66）

栗本（2008： 65-66）は・・・と指摘している。

（Koizumi 2005； ヒベイロ 2007）

（栗本 2006； 2008） 【同一著者による複数の論文・著作を参照する場合】

後注で表記する場合の例

本文中で引用する文献について、書誌情報を後注で示す場合には下記例に倣って表記し、「前掲書」「op. cit.」の使用を避けてください。「同書」「同頁」「ibid」は、著者名を併記する等、指示文献が明確に分かるように表記してください。また、後注で示した場合でも、末尾に参考文献一覧を付して下さい。繰り返し同一論文を引用する場合、略称を使用することを認めます。

著書の場合 編著者『標題』（出版地ないし出版社）発行年、巻数、頁。

日本語著書の場合、「出版地」を省略してもよい。

論文の場合 著者「標題」『雑誌名』巻号（発行年）頁。

- 5) 注は後注（本文の後、参考文献一覧の前）とし、通し番号 1)、2)をつけてください。
- 6) 図表の題目は、図の場合は図の下に、表の場合は表の上につけてください。
- 7) 引用・参照した文献は、文末に一括して記載してください。

10. 参考文献の記載方法

参考文献は、使用言語ごとに区分して一覧表示してください。日本語文献の配列は、著者名（姓）の50音順とします。日本語以外の言語によって書かれた文献の配列は、著者名（姓）のアルファベット順とします。同一著者の文献が複数あれば刊行年順に列挙してください。

11. 参考文献の記載方法の例

雑誌論文

栗本英世

2006 「戦後スーダンの政治的動態——包括的平和協定の調印から一年を経て」『海外事情』54(4): 77-92。

Koizumi, Junji

2005 Pluralizing Anthropology. *Anthropology News* 46(7), 9.

論文集所収の論文

栗本英世

2008 「教育に託した開発・発展への夢——内戦、離散とスーダンのパリ人」石塚道子・田沼幸子・富山一郎編『ポスト・ユートピアの人類学』pp. 45-69、京都：人文書院。

ヒベイロ, グスタボ・リンス

2007 「複数のグローバル化——代替的な（ネイティブに代わる）トランスナショナルな過程と行為者たち」久保明教訳、小泉潤二・栗本英世編『第3巻 トランスナショナルリティ研究』（「インターフェイスの人文科学」研究報告書2004-2006）pp. 49-108、大阪：大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文科学」。

Malkki, Liisa H.

2001 Figures of the Future: Dystopia and Subjectivity in the Social Imagination of the Future. In E. Kurimoto (ed.) *Rewriting Africa: Toward Renaissance*, pp.239-261.

JCAS Symposium Series 14. Osaka: JCAS, National Museum of Ethnology.

単行本

栗本英世

1996 『民族紛争を生きる人々——現代アフリカの国家とマイノリティ』京都：世界思想社。

James, Wendy, Donald L. Donham, Eisei Kurimoto and Alessandro Triulzi (eds.)

2002 *Remapping Ethiopia: Socialism and after*. Oxford: James Currey.

翻訳書

ギアツ, クリフォード

2002 『解釈人類学と反=反相对主義』小泉潤二編訳、東京：みすず書房。

ウェブサイトから情報を引用する場合は、基本的には上の文献の書誌情報に準ずるが、その他にもサイト名、アクセス年月日、URL 等、アクセスおよび検索に有用な情報を記入する。

2008年2月14日制定
2009年8月24日改定